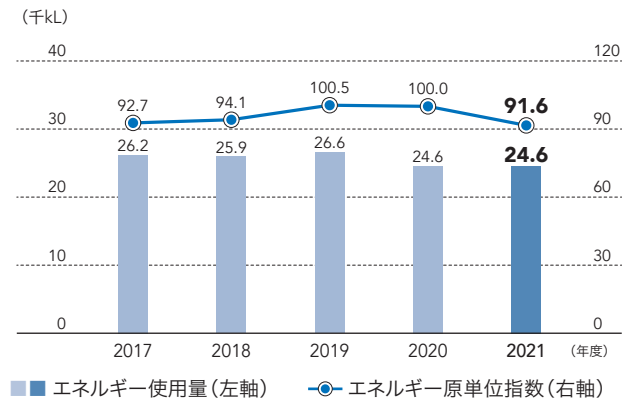


環境データ

環境負荷の推移

エネルギー使用量の推移

(四日市、大湯、滋賀、管理部門、関係会社)

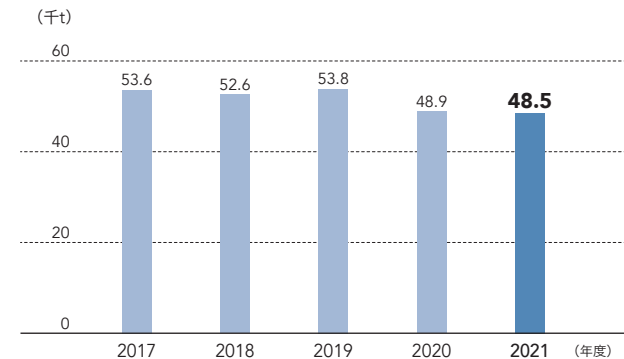


※ エネルギー原単位指数は、省エネ法の定期報告書に基づき第一工業製薬単体について算出 (GX戦略目標 (2030年度)、中期環境目標 (2024年度) の基準となる2020年度を100とする)。

※ 関係会社には、四日市合成、京都エレックス、第一セラモを含み、2019年度以降はそれに加えて池田薬草を含む。

温室効果ガス排出量の推移

(四日市、大湯、滋賀、管理部門、関係会社、非エネルギー由来)

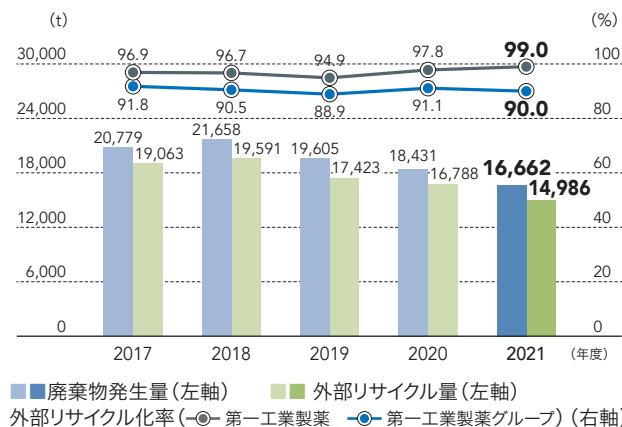


※ 管理部門には、社有車の燃料を含む。

※ 関係会社には、四日市合成、京都エレックス、第一セラモを含み、2019年度以降はそれに加えて池田薬草を含む。

廃棄物発生量、外部リサイクル量、外部リサイクル化率の推移

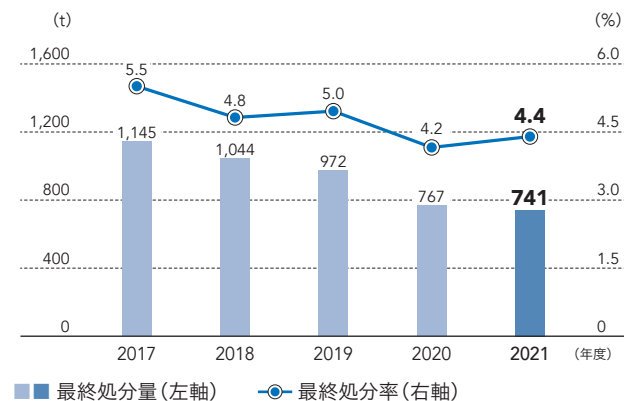
(四日市、大湯、滋賀、京都、関係会社)



※ 関係会社には、四日市合成、京都エレックス、第一セラモを含み、2019年度以降はそれに加えて池田薬草を含む。

最終処分量・最終処分率の推移

(四日市、大湯、滋賀、京都、関係会社)

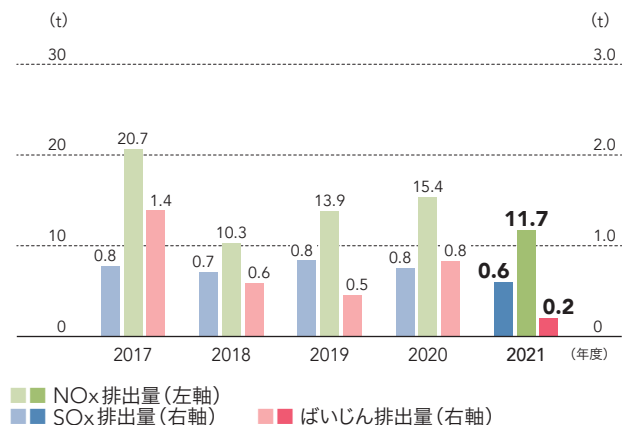


※ 最終処分率: 廃棄物発生量に対する最終処分量の比率

※ 関係会社には、四日市合成、京都エレックス、第一セラモを含み、2019年度以降はそれに加えて池田薬草を含む。

SOx排出量、NOx排出量、ばいじん排出量の推移

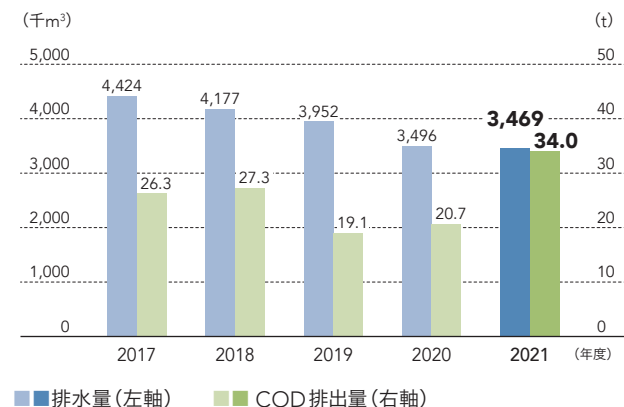
(四日市、大湯、滋賀)



※ 四日市合成には、SOx、NOx、ばいじんの発生施設はない。

排水量、COD排出量の推移

(四日市、大湯、滋賀、四日市合成)

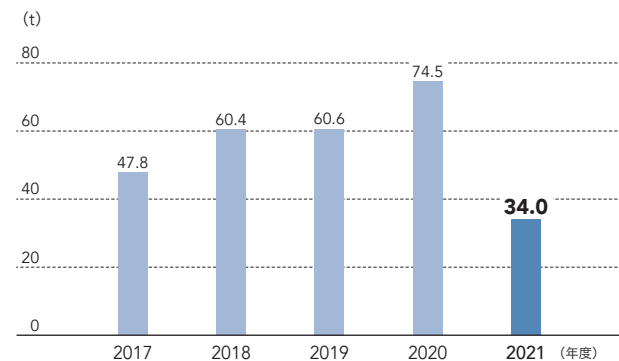


環境データ/コンプライアンス意識調査結果

環境負荷の推移

PRTR制度対象化学物質排出量の推移(大気排出量)

(第一工業製薬、四日市合成)

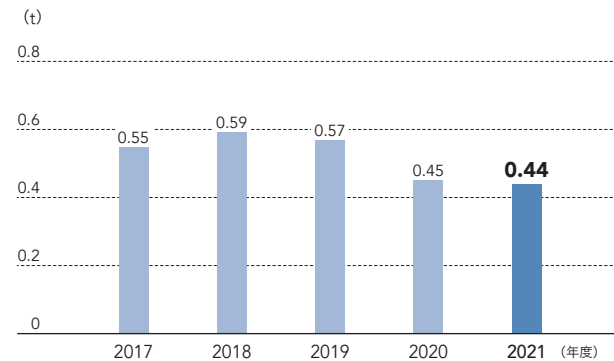


※ 数値は、第一工業製薬と四日市合成との合計。

▷ 2021年度のPRTR制度対象化学物質の排出量・移動量(対象化学物質のうち、排出または移動量が0.01t以上の物質)は、当社ホームページに掲載。
<https://www.dks-web.co.jp/ir/report/index.html>

PRTR制度対象化学物質排出量の推移(水域排出量)

(第一工業製薬、四日市合成)



※ 数値は、第一工業製薬と四日市合成との合計。

▷ 2021年度のPRTR制度対象化学物質の排出量・移動量(対象化学物質のうち、排出または移動量が0.01t以上の物質)は、当社ホームページに掲載。
<https://www.dks-web.co.jp/ir/report/index.html>

環境会計

環境保全の投資額と費用額

分類	主な取り組み内容	投資額 (百万円)	費用額 (百万円)
事業エリア内 コスト	公害防止 大気汚染防止 水質汚濁防止	34.8	265.0
	地球環境保全 省エネルギー	4.4	77.1
	資源循環 省資源 廃棄物処理・処分	0.4	480.0
上・下流コスト	容器包装などの低環境負荷化	0.0	3.4
管理活動コスト	ISO取得・維持 事業場内緑化	1.1	36.6
研究開発コスト	環境対応のための研究開発	0.0	601.1
社会活動コスト	環境保全団体 地域への環境保護支援金	0.2	1.2
環境損傷コスト		0.0	0.0
合計		41.0	1,464.4

環境保全対策にともなう経済効果

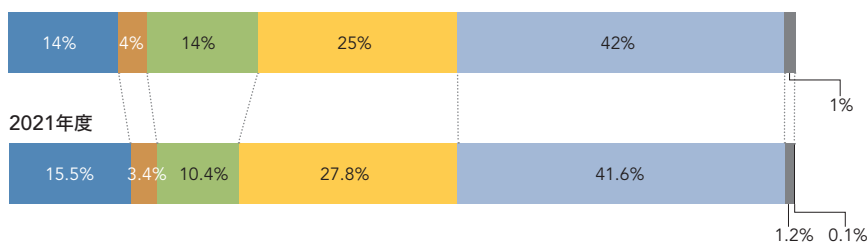
分類	内容	経済効果額 (百万円)
有価物の売却益	金属屑、廃油、アルカリなどの売却益	3.3
省エネルギーによる 費用節減額	電力と燃料の節減益	9.2
省資源による 費用節減額	水・廃棄物削減による節減益	11.4
合計		23.9

コンプライアンス意識調査結果

コンプライアンス浸透活動に対する今後の取り組みを希望する施策分野について、回答結果を記載しています。

対象者：DKSグループ従業員

2020年度



■ 情報管理・知的財産権 ■ 独占禁止法・下請法 ■ 環境保護 ■ ハラスメント ■ 職場環境・在宅業務 ■ その他 ■ 未回答